

科目名：看護過程 (Nursing Process) 履修年次/時期：1 年次後期 授業形態：講義・演習 担当教員：棚橋泰之（実務経験あり）		必	1 単位 (45 時間)
学修目的	看護の対象となる人に対して個別性に合った科学的な看護を実践するための方法である看護過程についてその概要と意義を理解し、看護過程に必要な基本的な知識・技術・態度について学修する。 CP2,3,6 に関連する。 科目：KNz-132		
この科目が目的としている DP	1. 医療専門職としての倫理観を有する。	(1) 生命の尊厳を基盤とし、医療における倫理観を有する。	○
		(2) 医療専門職として礼節を重んじ品格を備える。	○
	2. 医療専門職として健康問題の発見と課題に取り組む能力を有する。	(1) 教養と考える力を身につけ、主体的に課題解決に取り組む能力を有する。	◎
		(2) 専門的知識や技術を修得し、人びとの健康に寄与できる能力を有する。	○
		(3) 社会の動向に関心を持ち、学び続ける力を有する。	○
	3. 健康支援を通し、全身の健康を守る看護実践能力を有する。	(1) 多様な価値観を持った人びとを理解し、人間関係を築く能力を有する。	○
		(2) 優しさに溢れる看護専門職として地域社会に貢献する能力を有する。	○
(3) 看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と協働できる能力を有する。		○	
◎： この講義・演習・実習と最も関連がある DP ○： この講義・演習・実習と関連がある DP			
到達目標	①看護の過程とは何かを説明できる。 ②看護過程の構成要素を述べることができる。 ③看護過程を用いることの意義がわかる。 ④看護過程の基盤となる考え方がわかる。 ⑤事例を用いた看護過程の展開ができる。		
授業概要	看護の対象が持つ看護上の問題点のアセスメント、看護問題の明確化、看護目標と看護計画の立案、看護の実施及び看護の評価に関する一連の思考過程を学習するものである。看護は実践の科学ともいわれるように、援助の必要性和根拠に基づいた看護計画の下に看護技術が実施されることが重要であり、看護実践における思考過程の方法をしっかりと学習することをねらいとする。よって、本教科では看護の独自性を学習すると共に、臨地実習において活用される看護過程展開の理論を学習し、看護判断能力と応用能力、及び問題解決能力を養うことを目指すものである。		
評価方法	筆記試験 60 点、演習課題 40 点（病態関連図 10 点、アセスメント 10 点、全体像関連図 10 点、診断リスト・看護計画 10 点） 試験に対するフィードバックは掲示で行う。		
予習・復習時間	【予習】 0.5 時間 【復習】 0.5 時間		
教科書	系統看護学講座 基礎看護学② 基礎看護技術 I 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学④ 臨床看護総論 医学書院 NANDA-I 看護診断 定義と分類, 2021-2023, T.ヘザー・ハードマン・上鶴重美原著編集, 日本看護診断学会監訳, 医学書院		

	看護過程実践ガイド 棚橋泰之著
参考書	必要時、提示する。
お問い合わせ 連絡先	<p>棚橋泰之 3号館3階研究室 tanahashi@kdu.ac.jp 不在時はメールでお願いします</p> <p>飯塚雅子 3号館3階研究室 iizuka.masako@kdu.ac.jp 同上</p> <p>北村容子 3号館3階共同研究室 y.kitamura@kdu.ac.jp 同上</p> <p>横正奈緒美 3号館3階共同研究室 yokosho@kdu.ac.jp 同上</p>

実施回	授業計画	予習・復習・キーワード	担当
1 (/)	科目ガイダンス 看護過程とは ①看護過程とは何かがわかる。 ②看護過程の5つの構成要素がわかる。 ③問題解決過程とは何かがわかる。 ④クリティカルシンキングとは何かがわかる。 事例紹介 学習課題の提示	[予習]基礎看護技術Ⅰ第5章A、Bを読みわからぬ言葉を調べておく。 [復習]講義内容を振り返る。課題学習に取り組む [キーワード]看護過程、5つの構成要素、問題解決過程、クリティカルシンキング	講義 ○棚橋
2 (/)	アセスメント(1) (情報収集と分析) ①データと情報の違いがわかる。 ②情報の収集方法がわかる ③情報の種類がわかる。 ④看護情報のクラスタリングの意味がわかる。	[予習]基礎看護技術Ⅰ第5章Cを読みわからぬ言葉を調べておく。 [復習]講義内容を振り返る。 [キーワード]データ、看護情報、情報源、面接、フィジカルアセスメント、観察、主観的情報、客観的情報、クラスタリング	講義 ○棚橋
3 (/) 4 (/)	アセスメント(2) (アセスメント) ①アセスメントの種類がわかる。 ②アセスメントの方法がわかる。 アセスメント(3) Gordonの機能的健康パターン ①各パターンのアセスメントの視点がわかる。 ②各パターンの情報収集項目がわかる。 ③情報の分類・整理のしかたがわかる。	[予習]看護過程実践ガイドA、Cを読んで講義に参加する。 [復習]講義内容を振り返る。 [キーワード]フォーカスアセスメント、データベースアセスメント、アセスメント枠組み、解釈・判断・推論、Gordonの11の機能的健康パターン	講義 ○棚橋
5 (/) 6 (/)	病態関連図 ①「疾患」「症状」「治療・処置」を関連づけられる。 ②症状のメカニズムを考えることができる。 ③病態関連図の書き方が理解できる。 課題1 病態関連図 (10点) 提出日 月 日 時	[予習]事例の病態について調べ学習をしておく。 [復習]講義内容・ワークを振り返り、病態関連図を完成させ、ファイルに綴じる。 [キーワード]疾患、症状、治療・処置、症状のメカニズム、病態関連図	個人ワーク/グループワーク/講義 ○棚橋
7 (/)	事例の展開 フェイスシート ①フェイスシートの内容が理解できる。 ②事例のフェイスシートが書ける。	[予習]フェイスシートとは何かを調べておく。 [復習]講義内容を振り返る。 [キーワード]フェイスシート	個人ワーク/講義 ○棚橋

<p>8 (/) 9 (/) 10 (/)</p>	<p>事例の展開 アセスメントの実際</p> <p>① アセスメントの記載方法が理解できる。 ② 必要なパターンのアセスメントができる。</p> <p>課題2 アセスメント (10点)</p> <p>提出日 月 日 時</p>	<p>[予習]看護過程実践ガイドをよく読んで参加する。アセスメントシートを準備しておく。 [復習]指定されたアセスメントを仕上げファイルに綴じておく。 [キーワード]フェイスシート、11の機能的健康パターンのアセスメント</p>	<p>個人ワーク/グループワーク/講義 ○棚橋 飯塚 北村 横正</p>
<p>11 (/) 12 (/) 13 (/)</p>	<p>事例の展開 全体像関連図・看護診断の特定</p> <p>①全体像関連図とは何かがわかる。 ②全体像関連図に記載すべき内容がわかる。 ③看護診断の導き方がわかる。</p> <p>課題3 全体像関連図 (10点)</p> <p>提出日 月 日 時</p>	<p>[予習]アセスメントについてわからないことを明確にしておく。 [復習]全体像関連図を仕上げファイルに綴じておく。 [キーワード]全体像関連図、看護診断、診断指標(観察可能な証拠)、関連因子(原因として考えられること)、危険因子</p>	<p>個人ワーク/グループワーク/講義 ○棚橋 飯塚 北村 横正</p>
<p>14 (/)</p>	<p>事例の展開 看護計画立案・評価</p> <p>①看護計画の構成要素がわかる。 ②導いた看護診断に対する看護計画が立案できる。 ③看護過程の評価の方法がわかる。</p> <p>課題4 看護計画 (10点)</p> <p>提出日 月 日 時</p>	<p>[予習]全体像関連図についてわからないことを明確にしておく。 [復習]看護計画を仕上げファイルに綴じておく。 [キーワード]看護計画、看護診断、看護成果(看護目標)、看護介入、OTE-Plan、看護過程の評価</p>	<p>個人ワーク/グループワーク/講義 ○棚橋 飯塚 北村 横正</p>
<p>15 (/)</p>	<p>まとめ</p> <p>①看護過程の一連のプロセスが理解できる。 ②看護過程のある看護とない看護の違いが理解できる。</p>	<p>[予習]これまでの講義で不明な点を明確にし、参加する。 [復習]情報のクラスタリングの練習をする。 [キーワード]看護過程の展開、看護過程のある看護とない看護</p>	<p>個人ワーク/講義 ○棚橋 飯塚 北村 横正</p>